

令和４年度当初予算施政方針

令和４年都城市議会３月定例会の開会に当たり、市政運営に対する基本的な考え方について、所信を申し述べますとともに、令和４年度当初予算の大要を御説明申し上げます。

さて、皆様御承知のとおり、新型コロナウイルス感染症につきましても、変異を重ねながら今日まで至っており、世界中で多くの感染者・死亡者が確認され、我が国におきましても、令和２年２月以降、全国で感染が拡大しております。

この間、国は、新型コロナウイルスワクチン接種を積極的に進め、感染の抑制に努めてきましたが、令和４年１月からの第６波においては、ピーク時には、１日に１０万人を超える新規感染者が確認され、多くの都道府県にまん延防止等重点措置が適用される事態となりました。

また、宮崎県においても、令和４年１月２５日から現在に至るまで、県内全域をまん延防止等重点措置区域とし、飲食

店等の営業時間短縮要請を行うなど、新型コロナウイルス感染症との闘いは続いており、未だ先の見通せない状況であります。

こうした中、令和3年度におきましても、まずは、新型コロナウイルス感染症対策に注力してまいりました。

特に、新型コロナウイルスワクチン接種に当たっては、集団接種と個別接種を組み合わせ、重症化が危惧される高齢者をはじめ、希望する市民への2回のワクチン接種をスピード感をもって実施したところであり、現在、3回目のワクチン接種を進めているところであります。

また、地域経済の回復等の対策として、「住宅リフォーム促進事業」に加え、本市で初めての地域通貨となる「にくPAY」にも取り組み、多くの市民の皆様にご利用いただいたところであります。

一方、就任以来一貫して取り組んできております、“本市が持つ3つの宝”、すなわち「農林畜産業」、「地の利」、「人間力

あふれる子どもたち」をより一層輝かせるための施策にも、引き続き取り組んでまいりました。

「農林畜産業」の振興では、畜舎等の施設整備を促進する国のクラスター事業を活用して、地域産業の核である畜産業の生産基盤の充実・強化を図るとともに、6次産業化の推進やスマート農業促進事業に取り組んだところであります。

「地の利」の拡大では、都城志布志道路の整備が更に進展し、令和4年3月12日に「乙房IC・横市IC」間が開通予定であり、これによって全区間の約8割が開通することになります。

「人間力あふれる子どもたち」の育成では、1人1台パソコンの整備や統合型校務支援システムを導入し、児童生徒の学力向上を図るとともに、小学校に加え、中学校に図書館サポーターを配置し、児童生徒の読書環境の向上にも取り組んだところでありますが、こうした様々な取組に対し、市民の皆様から御理解と御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

す。

さて、足下の我が国経済を見ますと、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況から徐々に回復しつつある中、オミクロン株による感染拡大に直面し、市民生活や経済への影響が未だ続いている状況であります。経済の先行きについては、国の各種施策の効果や海外経済の改善等もあって持ち直していくことが期待されております。

こうした中、政府は、感染拡大防止策等を着実に進めるとともに、「成長と分配の好循環」による「新しい資本主義」の実現に向けて、いわゆる「16か月予算」として令和3年度補正予算と一体的に令和4年度予算を編成したところであります。

本市におきましては、こうした政府の対応等も踏まえて、適時適切に様々な施策に取り組む必要があると考えており、今般編成した本市の令和4年度当初予算におきましても、まずは、新型コロナウイルス感染症対策を、国・県と更に連携

してしっかりと取り組んでまいります。

その上で、「デジタル化の推進」に積極的に取り組むとともに、これまで進めてきている様々な施策、具体的には、本市が持つ“3つの宝”をより一層輝かせるための各施策をはじめ、「子ども・子育て支援」、「仕事と子育ての両立支援」、「市民の健康増進」、「スポーツ・文化活動の推進」や「中心市街地の活性化」、「地域の活性化」等の重要施策の推進に予算配分を行うとともに、「市民サービスの更なる向上」のための各施策に取り組んでまいります。

また、これらに加え、「“肉と焼酎のふるさと・都城”の対外的なPR」の更なる推進を図る各施策にも積極的に取り組んでまいります。

その一方で、行財政改革の推進による財政健全化を着実に進め、各施策への予算配分との両立を図った予算となっており、まさに、“南九州の拠点都市＝リーディングシティ”の確立と“笑顔あふれるまち＝スマイルシティ都城”の実現、そ

して、その先にある「市民の幸福と本市の更なる発展」を実現するための予算、『スマイルシティ都城・未来発展予算』として編成したところであります。

それでは、まず、「新型コロナウイルス感染症対策」について御説明申し上げます。

これまで、本市では、新型コロナウイルス感染症対策として、「感染防止」、「生活支援・事業支援」、「地域経済活動の回復」、「新しい時代への取組の推進」に取り組んできておりますが、今後もスピード感をもって、しっかりと対応してまいります。

特に、3回目のワクチン接種につきましては、都城市北諸県郡医師会と緊密に連携し、個別接種に加え、令和4年1月29日より集団接種会場を開設し、市民の皆様への迅速なワクチン接種に取り組んでいるところであります。

また、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受けている地域経済の回復策として、令和3年度に引き続き、「住宅リ

フォーム促進事業」や「ミートツーリズム推進事業」等を実施してまいります。

次に、「デジタル化の推進」について御説明申し上げます。

本市では、令和元年8月、「都城デジタル化推進宣言」を行い、令和3年2月に「都城デジタル化推進宣言2.0」へ改訂した上で、より幅広い分野でのデジタル化に取り組んできております。

特に、デジタル時代のインフラとなるマイナンバーカードにつきましては、国と連携しながら普及促進に取り組み、令和4年2月現在、マイナンバーカードの交付率は76%を超え、市区別で全国1位となっております。

こうした中、令和4年度におきましては、組織・人材・予算全てを更に拡充し、新規事業33件を含む77件のデジタル関連事業に取り組み、全ての市民が、いつでも、どこでも、デジタル化の恩恵を享受できるまちづくりを進めてまいります。

一方、デジタル技術に関わることの少ない、いわゆるデジタル弱者と呼ばれる市民に対しては、不安を解消していただくための講座を開催するなど、様々なデジタル技術に触れる機会を設けて支援することで、「誰一人取り残されない、人にやさしいデジタル化」を実現してまいります。

次に、本市が持つ“3つの宝”をより一層輝かせるための各施策について御説明申し上げます。

第1の宝である「農林畜産業」の振興につきましては、令和4年10月に開催される全国和牛能力共進会鹿児島大会での日本一獲得を目指し、畜産農家や関係機関が一体となった取組を支援する「全国和牛能力共進会対策事業」や、地域産業の核である畜産業の収益力の向上や生産基盤の確保、国際競争力を強化するための「畜産競争力強化整備事業」に取り組んでまいります。

また、「養豚生産性向上対策事業」、「次世代乳用牛育成対策事業」、「鳥インフルエンザ等防疫対策支援事業」等に引き続

き取り組むとともに、生産者と専門家が共同で新たな商品を創造し「儲かる農業」を実現するため、「6次化商品開発共創事業」にも取り組んでまいります。

このほか、森林環境譲与税を活用した事業としまして、新たに、スギコンテナ苗の普及促進による植栽作業の省力化・分散化を図り、計画的・効率的な森林整備を推進してまいります。

第2の宝である「地の利」の拡大につきましては、令和3年11月、都城志布志道路「都城IC・乙房IC」間が、令和6年度に開通することが発表され、いよいよ全区間の約9割が開通することになります。市長就任以来、本道路の早期全線開通に向けて、様々な取組を行ってまいりましたが、今後とも引き続き、整備・活用促進大会の開催など啓発活動を行うとともに、官民一体となった要望活動を行ってまいります。

また、新たに鷹尾上長飯通線たかおかみながえとおりせん（川東工区）の市場入口交差いちばいりぐち

点について、渋滞緩和に向けた整備に着手するとともに、鷹尾^{たかお}

都原線、原村・今町線^{いままちせん}（瀬之口橋^{せのくちはし}）等の基幹道路の整備にも

継続して取り組んでまいります。

さらに、全ての区画で優先交渉者が決定した都城インター工業団地桜木地区は、令和4年度の完成に向け整備を行い、分譲を進めるとともに、新たな工業団地の整備を検討してまいります。

第3の宝である「人間力あふれる子どもたち」の育成につきましては、国が掲げるGIGAスクール構想に沿った小中学校のICT化を引き続き推進し、既に整備済みの1人1台パソコンを活用した小学校3年生以上の学習に、新たに「AIドリル」を導入し、児童生徒の学力向上を図ってまいります。

また、ALTによる語学指導事業を拡充し、語学力の向上と豊かな国際感覚の醸成を図るとともに、中学校図書館サポーターを増員することにより、生徒の読書環境の向上を推進

してまいります。

次に、主な重要施策について、順次、御説明申し上げます。

「子ども・子育て支援」につきましては、「子ども医療費助成事業」に引き続き取り組むとともに、令和4年度からの不妊治療の保険適用に伴って医療費助成制度を創設し、安心して子供を産み育てる環境を整備してまいります。

「仕事と子育ての両立支援」につきましては、新たに2か所の放課後児童クラブを開設するなど、子育て世代の両立支援を図ってまいります。

「市民の健康増進」につきましては、75歳以上の後期高齢者を対象に、高齢者の虚弱状態（フレイル）になりやすい特性を踏まえ、保健事業と介護予防を一体的に実施して重症化予防と健康寿命の延伸を図る取組を、市内全域に拡充し実施してまいります。

「スポーツ・文化活動の推進」につきましては、都城運動公園に、防災機能を持つ屋内競技場を新たに整備する「都城

運動公園防災施設整備事業」に取り組んでまいります。

また、令和9年に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会宮崎大会に向けて、山之口運動公園の「第3種公認陸上競技場」の整備に着手し、また、その玄関口となる山之口駅等の整備を進めるとともに、都城運動公園にテニスコート等の整備を進めてまいります。

さらに、「一般社団法人都城市スポーツコミッション」を設立し、スポーツを軸とした地域振興に取り組んでまいります。

また、芸術文化に触れる機会を提供するために、都城市立美術館で歌川広重「東海道五拾三次展」、都城島津伝承館で特別展「都城喫茶ことはじめ」を開催いたします。

「中心市街地の活性化」につきましては、「中心市街地居住推進事業」に引き続き取り組み、中心市街地への居住機能の集積を促進してまいります。

また、民間による複合商業施設「^テ ^ラ ^ス ^タ ^ラ ^ス ^タ」が令和4年4月に開業予定であります。これにより、中心市街

地の新たな魅力と更なる賑わいの創出・活性化、周辺の買い物困難者問題の解消等が図られることを期待しております。

「地域の活性化」につきましては、市内15地区で「地域活性化事業」を引き続き実施し、地域へ権限と財源を移譲することで、地域の活性化に向けた市民の皆様の自発的な取組を支援してまいります。

なお、地域活性化を進める上で重要な基盤であるまちづくり協議会の円滑な運営につきましても、継続してサポートするとともに、地域コミュニティの中核である自治公民館への支援も継続してまいります。

次に、「市民サービスの更なる向上」につきましては、近年多発する通学路の安全確保対策として、歩道のない通学路に新たに防護柵等を整備する「通学路防護柵緊急設置事業」に取り組んでまいります。

また、遺族に寄り添って死亡手続をサポートするおくやみ窓口につきましては、書類作成の負担軽減と手続時間の短縮

に継続して取り組んでまいります。

「“肉と焼酎のふるさと・都城”の対外的PR」の更なる推進につきましては、「肉と焼酎」を中心とした物産振興の拠点施設となる「道の駅都城」の再整備にしっかりと取り組むとともに、令和2年度全国1位となったふるさと納税につきましても、対外的なPRツールとして更に推進してまいります。

また、本市の貴重な観光資源「関之尾滝」を含む関之尾公園を「魅^みせる観光地」にリニューアルする事業に引き続き取り組んでまいります。

このほか、「妻ヶ丘地区公民館建設事業」、「山之口総合支所複合施設整備事業」にも継続して取り組んでまいります。

令和4年度におきましては、以上のような各施策に取り組んでいくこととしており、その結果、令和4年度当初予算は、一般会計につきましては936億8千万円となり、また、特別会計、企業会計を加えた全会計では1千461億4千538万6千円となっております。

一般会計予算に関しまして、歳出面では、「障害者福祉サービス給付費」等が増加したこと等により、扶助費が7億3千579万4千円増加し、235億6千704万6千円となりました。

また、投資的経費は「志和池最終処分場第3期建設事業費」が減少したものの、「畜産競争力強化整備事業費」や「物産振興拠点施設整備事業費」等が増加し、166億7千735万1千円となりました。

歳入面では、市税につきましては、前年度に比べて12億7千575万4千円増加し、192億1千772万8千円を見込んでおり、地方交付税につきましても、地方財政計画等を踏まえ、前年度と比べて9億6千622万7千円増の158億3千914万3千円を見込んでおります。

また、新規市債発行額につきましては、臨時財政対策債の減少により、前年度に比べて9億5千114万1千円減少し、55億5千566万7千円となっております。

なお、令和4年度末の一般会計の市債残高見込みにつきましては、688億4千711万5千円となり、初めて700億円を下回るなど、着実に財政健全化を進めておりますが、今後も引き続き、行財政改革の推進等に取り組み、財政健全化を図ってまいります。

以上、今後の市政運営に対する基本的な考え方と令和4年度当初予算の大要について御説明いたしました。

新型コロナウイルス感染症への対応は長期に渡っておりますが、市民の皆様お一人おひとりに御理解をいただき、感染拡大防止対策を講じていただいておりますことに対し、改めてお礼申し上げます。

今後も、新型コロナウイルスとの闘いはしばらく続くと思いますが、世界の英知を結集してワクチンや新たな経口薬の開発も進んできており、人類は必ずウイルスに打ち勝ちます。

私としては、まずは新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組むとともに、コロナ収束後をしっかりと見据え、本

市の未来の発展に大きく貢献する「デジタル化の推進」をはじめとする重要施策を、積極的に推進してまいります。

また、これらに加え、これまで取り組んできた、本市が持つ“3つの宝”をより一層輝かすための各施策や、「子ども・子育て支援」をはじめとする重要施策を着実に実施していけば、本市は、新型コロナウイルス感染症を乗り越えて新たな日常を取り戻すとともに、“南九州の拠点都市＝リーディングシティ”としての地位を確立し、“市民の笑顔があふれるまち＝スマイルシティ都城”を実現できると確信しております。

したがいまして、令和4年度におきましても、市民の皆様の御理解の下、初心を忘れず、これまで以上に“本気で挑戦”し、各施策を“積極的に前に進め”、本市の更なる発展のために全身全霊で取り組んでまいり所存でありますので、市民の皆様及び議員各位のより一層の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます、私の施政方針といたします。